

10/24 海

# 海洋放出「懸念」多数

## 原発汚染水 政府募集の意見集計

東京電力福島第1原発事故で発生する汚染水を処理した後の高濃度のトリチウム(3重水素)汚染水を薄めて海に放出するなどの処分方法を政府が検討し

ている問題で、政府が募集した意見(計4011件)の集計結果が明らかになりました。海洋放出について、約1400件が合意プロセスに懸念を示したほ

か、約1000件が風評影響などを懸念、約2700件が安全性への懸念を表明(重複含む)。国民的な合意が進んでおらず、強引に決定すれば問題が深刻

化するこが浮き彫りになりました。意見募集は4月6日〜7月末に実施。政府の廃炉・汚染水対策チーム(チーム長「榎山弘志(経済産業相)」が23

日に開いた会合で意見の概要が示されました。

合意プロセスについては、放出反対が多く国民の合意が取れていないなか「結論を急ぐべきでない」「海洋放出ありきの議論となつて」「国際社会から批判を受ける」といった意見がありました。漁業者への風評被害の確実な発生、福島への復興が停滞することの指摘がありました。

トリチウムそのものの安全性、炭素14などが含まれていることへの懸念もありました。

タンク増設による保管継続やモルタル固化による地下埋設など、環境放出以外の選択肢の提案もありました。